

## 入選

### 私の手のひらの小さな親切

山形県 鈴川小学校 五年

黒田 彩葉

私のお父さんは、夏も外で汗びっしょりになって、毎日仕事をしています。お母さんも、夜きんのときと朝から仕事のときがあります。朝から仕事のときは、早く家を出ます。夏休みに入り、私とお兄ちゃん、弟で家にいることが多く、3人で宿題をしたり、ゲームをして過ごしました。

朝ごはんは、夏野菜で作った「だし」や、たまご焼きやソーセージです。食器は、5人家族なのでたくさん使います。お父さんとお母さんが仕事なので、私は、

「みんなのためにできることをしたいなあ。お父さんとお母さん、いつもつかれているから助けたいなあ」と思ったので、皿洗いをしました。

皿洗いでは、食べ残しや、汚れがたくさんついていたので、時間がかかりました。でも、お父さんとお母さんが帰って来ると、「助かるう。」と言ってくれたので、夏休みにどんどん手伝いをしよう、という気持ちになりました。

私は、勉強はすきではなく、得意ではありません。でも、周りの人からは、よく気づいてくれると言われたことがあります。

例えば、スーパーで、商品がくずれていたのでも、整理整頓をしました。弟がお母さんにおこられ、となりの部屋で座っているとき、弟のせなかをさすりました。弟は私に抱きつきました。友達がものを落としたとき、拾うとニコッとした顔をされたり、弟とおばあちゃんちに行くときは、手をつないだり、おばあちゃんの重たい買い物バッグを持つと、「助かったよ」と言われます。

夏休み中に、私は食器洗いだけではなく、お風呂そうじもしました。仕事で汗をたくさんかいて帰って来たお父さんが、すぐにお風呂に入れるので、またほめてくれました。お母さんも、顔をなでてくれました。お母さんの手が、気持ちよかったです。

私は、親切は気づく心と、手のひらから始まると思いました。せなかをさすったり、手をにぎったり、手を使って、手が汚れても手伝いをすることは、私にはできると思いました。

手のひらの親切は、続けていきたいです。ただ、手は、悪いこともしてしまいます。私はケンカをしたり、自分がうまくいかないと、せなかをたたいたり、おしたこともあります。自分の手は、ときにはいやなこともしてしまうことを知っています。だから、できるだけそれはしないようにしていきたいです。

私の小さな親切は、手のひらにあります。それで、お母さんにハイタッチをしたり、大好きな人や困っている人に、手のひらでやさしくしていきたいです。

私のゆめは保育園の先生になることです。それは、子どもたちが楽しく、しあわせになってほしいからです。子ども一人ひとりのことに気づいて、手をつないだり、手をさしのべられる先生になりたいです。